

「教育実習を経験してから、本格的に家庭科教諭の道へ」

(牧野初音さん)

■なぜ、家庭科教諭をめざそうと思ったのでしょうか？

真剣に家庭科教諭という道をめざそうと思えたのは教育実習を経験してからです。もともと私は「人に教える」ということに自信がありませんでした。教員免許を取得しようと思ったのも小学校の教員をしている父に勧められるまま、なんとなく流れに任せて教職課程を取り続けていただけでした。ですが、教育実習先で生徒たちと触れ合い、尊敬する先生ができたことで「教員になりたい」という思いが強まり、教育実習後から本格的に家庭科教諭をめざして、学び続けました。

■大学の学びでは、どのような授業が印象に残っていますか？

博物館学芸員の「生涯学習論」という授業が印象に残っています。教職のほかに博物館学芸員資格、司書教諭の資格の取得をめざしているのですが、その中の生涯学習論で「博学連携」という言葉を知りました。「学校だけが学ぶ場所ではなく、博物館という専門機関と学校が連携し、博物館を使って生徒たちの学びを深めることができる」という話を聞いたとき、教職と大学での学びが繋がったような気がして、感激しました。

■教員採用試験に向けて工夫した点を教えてください

本当に、様々な先生にアドバイスをいただきに行きました。大学の教職教育支援センターの先生方への相談や面接練習の他、実技試験対策のために学科の調理、裁縫、各々の専門の先生の所へ行って、基礎の確認、どういったところに注意したらいいかなどのアドバイスをいただいて、採用試験に臨みました。

■どのような教員になりたいですか？

教育実習先で私を担当してくださった先生のようにになりたいです。先生は、生徒のことを考え、誰よりも先回りして行動する、「常に人のことを考えている」方でした。今の私は自分のことで手いっぱい、先回りして行動する余裕がありません。いつの日か、人間として成長し、人のために動ける、温かみのある先生になれば！と思っています。

■後輩たちへのメッセージ

「教員1本でいいのか」「進路に迷っている」、そんな人もいます。私は教員という道を進んでいくことに決めましたが、何になりたいか、どういう将来をめざすかは皆の自由！精一杯、もがいてみてください。悩んだときは一人で悩まず、周りの人に助けを求めてみて！たくさん悩んだ先にはきっと、納得のいく未来があると思います！